



～ 鹿児島为企业・顔・人・心～
『地域に貢献できるシステムを
先端技術で創造します』

株式会社日本計器鹿児島製作所
取締役工場長 浮辺 淳一

株式会社日本計器鹿児島製作所は、1976年(昭和51年)知覧町の誘致企業として創業を始めました。当初は針式の指示計器(メーター)の生産拠点としての事業を開始しましたが、表示機器の方式変更により受注が大きく減少しました。

この状況に対応すべく、1980年(昭和55年)より大手半導体メーカーの委託生産としてLEDの生産を開始し、順次製品の種類を増やしながら業務拡張を行い、現在では、LED、赤外受発光素子、超小型センサー等の部品実装、成型、検査、包装までの一貫生産を行っています。

この製造主体の業務を進める中で、作業効率の向上、設備稼働率改善を行うには独自の生産技術部門が必要であるとの考えに立ち、1990年に技術部を設置しました。機械設計、回路設計の充実を図り1992年より自動機器の外販を開始し顧客からの高い評価をいただいております。

また、1996年からは通信機器メーカーの委託生産を新たに開始し、精密部品の実装から組立、検査までを、自社で開発作成した精密実装機を用い生産を行っています。特にこの精密実装機は低コストでありかつ、高性能を持つ設備で、大きな評価をいただいております。

現在、製造業を取り巻く環境はますます厳しい状況になってきています。その中で、地域に貢献

しながらかつ業務発展できる方策がないかとの声が社内で次第に高くなり始めました。長年、培った半導体部品製造技術を基礎に新たな分野への挑戦ができないか、これが当社の現在の課題です。

その中で、当社の位置しております知覧町の地域特性を考えて見ますと、お茶等の農産物(農業)があげられます。農業分野でのオリジナル商品の開発、販売が今後の大きな経営戦略の柱になっています。

すでに手がけている製品としては、茶畑自動散水制御装置、土壌水分感知制御装置、電照菊用LEDライト、干し大根重量選別機など、実際の農業に密着した機器の開発をめざしています。

ISO14000をはじめ地球規模での環境対策が大きく叫ばれています。前述の電照菊用LEDライトはこの点からも画期的な商品であり、従来の電球に比べ電力消費は20分の1になるという優れた性能を持っています。

新たな分野への挑戦には、時間も、人も、資金も必要です。当社も製品開発に際し、鹿児島大学、県果樹試験場、工業技術センターなどのご協力をいただきました。

今後も更なる技術力の向上、人材育成のために工業技術センターの研修会等に積極的に参加したいと思います。そして、画期的な商品を共同開発できればと大きな夢を抱いております。



茶畑自動散水制御装置



郡工場全景